

『石膏デッサンの100年』出版刊行記念トーク 「継承、断絶、誤読—私たちにとって石膏デッサンとは何だったのか！？」上映資料

作製：荒木慎也

※著作権・肖像権上の配慮から、当日上映した資料から作品図版を削除しました。また、一部作品の補足説明を追加しました。

※会場で上映した東京藝術大学の男女別合格倍率は、分母が「志願者数」と「受験者数」の統一がとられておらず、不正確な情報を含むものであったため、合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一しました。また、2005年度・2006年度のデータを追加しました。そのため、イベントで発表した数字とは一部異なる箇所があります。

東京藝術大学日本画専攻の男女別入試倍率①

※合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一し、一部データを追加したため、イベントで発表した数字とは異なる箇所があります

年度	男子志願者数	男子合格者数	男子倍率	女子志願者数	女子合格者数	女子倍率
2017	86	7	12.3	336	18	18.7
2016	78	9	8.7	354	16	22.1
2015	86	9	9.6	356	18	19.8
2014	101	8	12.6	382	19	20.1
2013	114	10	11.4	400	15	26.7
2012	109	9	12.1	404	16	25.3
2011	111	11	10.1	407	14	29.1
2010	109	9	12.1	406	16	25.4
2009	109	10	10.9	443	15	29.5
2008	125	10	12.5	445	15	29.7
2007	132	11	12	492	14	35.1
2006	135	11	12.3	547	14	39.1
2005	171	12	14.3	542	13	41.7
2004	153	10	15.3	537	15	35.8
2003	161	16	10.1	485	10	48.5
2002	154	11	14	507	14	36.2
2001	176	13	13.5	516	12	43

東京藝術大学日本画専攻の男女別入試倍率②

※合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一し、一部データを追加したため、イベントで発表した数字とは異なる箇所があります

年度	男子志願者数	男子合格者数	男子倍率	女子志願者数	女子合格者数	女子倍率
2000	161	11	14.6	511	14	36.5
1999	142	11	12.9	538	14	38.4
1998	153	13	11.8	543	13	41.8
1997	176	12	14.7	572	14	40.9
1996	178	14	12.7	537	12	44.8
1995	195	13	15	547	13	42.1
1994	208	13	13.1	524	13	40.3
1993	197	14	14.1	511	12	42.6
1992	179	12	14.9	467	14	33.4
1991	175	13	13.5	368	13	28.3
1990	173	14	12.4	351	12	29.3
1989	181	13	13.9	346	13	26.6
1988	181	14	12.9	353	12	29.4
1987	196	15	13.1	342	11	31.1
1986	156	15	10.4	297	10	29.7

東京藝術大学油画専攻の男女別入試倍率①

※合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一し、一部データを追加したため、イベントで発表した数字とは異なる箇所があります

年度	男子志願者数	男子合格者数	男子倍率	女子志願者数	女子合格者数	女子倍率
2017	298	27	11.0	768	27	28.4
2016	280	15	18.7	778	40	19.5
2015	282	19	14.8	710	40	17.8
2014	300	16	18.7	770	43	17.9
2013	294	16	18.4	803	38	21.1
2012	290	16	18.1	879	39	22.5
2011	339	22	15.4	1026	33	31.1
2010	390	20	19.5	1057	35	30.2
2009	437	17	25.7	1135	38	29.9
2008	439	21	20.9	1150	34	33.8
2007	475	22	21.6	1161	33	35.2
2006	551	24	23	1241	34	36.5
2005	626	24	26.1	1219	36	33.9
2004	666	22	30.3	1224	35	35.0
2003	690	22	31.4	1282	34	37.7
2002	801	16	50.1	1353	39	34.7
2001	824	24	34.3	1336	32	41.8

東京藝術大学油画専攻の男女別入試倍率②

※合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一し、一部データを追加したため、イベントで発表した数字とは異なる箇所があります

年度	男子志願者数	男子合格者数	男子倍率	女子志願者数	女子合格者数	女子倍率
2000	851	33	25.8	1420	24	59.2
1999	796	22	36.2	1383	33	41.9
1998	954	18	53	1562	43	36.3
1997	998	30	33.3	1632	30	54.4
1996	1043	34	30.7	1607	26	61.8
1995	1061	37	28.7	1591	23	69.2
1994	1113	32	34.8	1589	28	56.8
1993	1121	34	33	1579	27	58.5
1992	1122	38	29.5	1481	22	67.3
1991	1084	40	27.1	1324	20	66.2
1990	1026	38	27	1092	22	49.6
1989	1062	43	24.7	1043	17	61.4
1988	1099	34	32.3	973	11	88.5
1987	1072	45	23.8	900	15	60
1986	965	42	23	747	18	41.5

東京藝術大学芸術学科の男女別入試倍率

※合格倍率の算出方法を「志願者数÷合格者数」に統一し、一部データを追加したため、イベントで発表した数字とは異なる箇所があります

年度	男子志願者数	男子合格者数	男子倍率	女子志願者数	女子合格者数	女子倍率
2017	19	4	4.8	52	17	3.1
2016	14	4	3.5	56	18	3.1
2015	14	2	7	61	20	3.1
2014	16	2	8	58	19	3.9
2013	23	6	3.8	62	16	4
2012	24	7	3.4	52	13	3.6
2011	31	4	7.8	58	16	4
2010	26	4	6.5	68	17	3.6
2009	28	2	14	66	19	4
2008	23	2	11.5	92	20	3.5
2007	32	1	32	87	20	4.6
2006	30	7	4.3	72	15	4.8
2005	30	6	5	69	16	4.3
2004	23	3	7.7	82	17	4.8
2003	26	8	3.3	77	13	5.9
2002	33	4	8.3	79	17	4.6
2001	41	6	6.8	71	15	4.7

東京藝術大学油画専攻教員

油画

小林正人 教授 小山穂太郎 教授 OJUN 教授
杉戸洋 准教授 保科豊巳 教授 坂田哲也 教授

版画

ミヒヤエル・W・シュナイダー 准教授
三井田盛一郎 准教授

壁画

中村政人 教授 工藤晴也 教授

技法材料

齋藤芽生 准教授 秋本貴透 教授

助教

高橋涼太 助教

東京藝術大学日本画専攻教員

日本画 第一研究室

齋藤典彦 教授 植田一穂 教授

日本画 第二研究室

梅原幸雄 教授 海老洋 准教授

日本画 第三研究室

手塚雄二 教授 吉村誠司 教授

非常勤講師

喜多祥泰 松岡歩 石原孟

助教

廣瀬貴洋

教育研究助手

岩谷駿 窪井裕美 長澤耕平 菅原道朝 牧野香里 川崎麻央

松村侑紀

多摩美術大学彫刻科でのアカハラ告発問題

- 指導方針が不明確
- 論文審査割当の不透明性
- 指導の硬直性
- 女性の専任が1人のみ

<https://sites.google.com/view/student-choukoku/home>より

2018年2月22日

彫刻学科研究室 御中

安倍千隆 教授
笠原恵実子 教授
川越悟 教授
多和圭三 教授
水上嘉久 教授
村井進吾 教授

彫刻学科大学院学生有志

彫刻学科への要望書

昨年度の3月に提出した要望書の内容は、彫刻学科の教授に対して、学生に対する態度や自らの仕事に対する意識を改めて欲しい、という旨のものでした。しかし今年度の7月に彫刻研究室からいただいた回答書や、その後の教授の言動や行動を見ても、改善はなく、今後、改善する兆しが見えない状況であることは学生の目から見て明白です。そこで**来年度より現在の彫刻学科の教育の仕組み自体を早急に変えていく必要がある**と感じ、彫刻学科の教授に向けての意見と、それに従った要求を出させていただきます。

美術大学である以上、世界に通用するアーティストの輩出を目指すべきであり、実際に彫刻学科の大学院の学生のほとんどはアーティストを志望して進学しています。それにもかかわらず、現在のように中途半端な制作理論の指導や技術指導しか行われていないことに対し矛盾を感じています。

これまでは、大学を通して彫刻学科の状況の改善を求めて参りました。しかし学生が匿名で発言している限りは、**彫刻学科の体制に対する意見だけでなく、彫刻学科内で起きているハラスメントの問題に対しても明らかになおざりにされ、学生の求めていた彫刻学科の状況の改善は全く行われていません**。彫刻学科及び本大学には、美術大学としてアーティストを育成する場としての教育を提供する意志、そして学生を守る意志がないと判断し、同意する学生の名前と個別の意見を添えて意見と要求を提出します。また、昨年度の3月に提出した要望書に対する彫刻学科研究室からの回答書に書かれていた内容に反して、**未だに起きているハラスメント**の報告とともに、学生と大学が学科の教授を精査する仕組みを求める、大学への要望書を、大学へ同時に提出します。

またこれらの要求は、学生の現状に対する不満に留まるものではなく、美術大学で教育を受けることの意味を考えた上で導き出されたものです。多摩美術大学が将来的に世界で活躍するアーティストを輩出し続ける大学であってほしいと学生も願っています。

現在では学生と教授の関係は、教授が学生に評価を与えるのみの一方的なものであり、学生は教授からハラスメントを受け、破綻した教育現場に置かれ続けていても、卒業時まで何も改善されないままの状況に耐えるしかありません。**現在の彫刻学科における教育が破綻した状況の改善や、高い密着性があることで今後起こり得るハラスメントの防止を目的とし、この要求を提出します。**

五美大展での作品出品拒否

私は日本にある香港式中華料理屋で働いており、そこには厨房が全員香港人で、ホールは香港人が一人、中国人が二人、ベトナム人が一人、日本人が私を含め五人勤めています。あるとき日本人である社長から「俺、中国のもの食べないから。」と言ってお菓子の箱を渡されました。それは厨房で働いている K さんが香港に一時帰省されたときに、お土産として買ってきて社長に渡したものでした。私のバイト先では、厨房の人たちは年に一度母国である香港に帰らなければいけないきまりがあります。K さんの一時帰国もそれが理由です。私は、その社長からもらったお菓子を食べようか迷いましたが、なんとなく食べることもできず、暫く自分の部屋に置いたままにしていました。しかし、それも自分のなかで何か間違えているのではないかと、また、私はこのお菓子を受け取ることはできないと考え、公に出して、人の目に触れるところに置いておきたいと思い、もらった経緯を含めてそのまま作品にすることにしました。

しかし、本展では、6 ピースのお菓子本体とそれを個別に包んでいるビニール小袋が展示されておらず、一番外身のボール紙の箱とお菓子の小袋が仕舞われていたプラスチックプレートのみが展示になっています。

本展の準備期間中、水や砂などの特殊な素材を扱った展示を行う作品は全て国立新美術館で行われる協議を受けなければならなかったため、本作も協議を受けました。そして、協議の結果、本作のお菓子本体とそれを包む小袋は展示不可となりました。また、協議など本展の準備期間中に使われた、美術館使用規約等あらゆる資料の開示は叶いませんでした。

前述した、このお菓子のもつ最初の経緯について考えると、このお菓子の全てが美術館に受け容れて頂けなかったことは残念です。今あなたの目の前にあるものは、このお菓子にまつわる全ての個人や集団の様々な意志や意向、統制が作りだした結果です。私たちはその顛末を含む全てを受け入れる必要があるのだと思います。



五美大展での作品出品拒否

五美大展に出品された大橋藍さんの作品。

アルバイト先の店長による人種差別的な発言を扱った作品は撤去されたが、同時に出品されていた「相模原上空を飛行する軍用機を記録する」映像作品は出品されていた。（作品写真は筆者撮影）

どちらも政治的に繊細で緊張感のある主題だが、出品の可否の判断はどこでなされたのか不明。

大橋さんの作品は会場にあった作品ファイルも含めて面白いものでした。

